

学校再編（学校適正配置）に向けた説明会【会議録】

1 日時

令和5年8月1日（火）19時00分～21時10分

2 場所

築港中学校多目的室

3 参加者

地域・保護者等の方々 110名

4 説明者及び関係者

【港区役所】

山口 港区長

若林 港区副区長

早川 港区役所教育担当課長

村上 港区役所協働まちづくり推進課課長代理 外10名

【教育委員会事務局】

近藤 学校環境整備担当部長

笹田 総務部学校適正配置担当課長

山東 総務部学校適正配置担当課長

岡永 総務部学事課学校適正配置担当課長代理 外3名

【学校関係者】

校長及び教頭 5名

5 説明会の概要

- (1) 山口 港区長よりご挨拶
- (2) 早川 港区役所教育担当課長より資料説明
- (3) 質疑応答

6 質疑応答の内容

①（築港地域の方）27:40

- ・ ご質問いたします。
- ・ 一番最初ですね、小学校の適正規模の確保に関する規則というようなもので、条例もあり規則もあり、小学校を統合していかないかというようなお話ですけども、区役所の方は

そういう規則に基づいてこういう案を作られたんだと思うんですが、一方、中学校については、今のところ探してみただけですけど、条例とか規則というのではないように思われます。

- ・ それにもかかわらず、ここに築港中学校が書いてあるんですけども。
- ・ 築港中学校と港中学校を合併させるというか一つにするということについて、その人数が減ってる、生徒の人数が減っているということはわかるんですけども、本当にそれが教育的にいいことなのか、あるいは防災上どういう問題があるのかというようなことは十分検討されたんでしょうか。
- ・ 経緯についてご説明いただきたいと思います。

(笹田 教育委員会事務局学校適正配置担当課長) 28:59

- ・ 教育委員会です。中学校について、条例規則がないというご指摘なんですけれども、おっしゃるとおり小学校のみということで、中学校に関しては条例規則には位置付けられておりません。
- ・ ただ、この条例、規則につきましては、まずは小学校の小規模化が喫緊の課題であったというようなことで、これまで取り組んできたルール等を、大阪市として、行政の責任において適正配置を進めるということにあたって、基準やルールや進め方を明文化したというものになりますので、条例等がないと適正配置ができないというものではないです。
- ・ これまでも条例を作る前から、主に小学校を中心として進めてまいりましたけれども、学校配置の適正化につきましては、その少子化に伴って区においても進めるべき方針とされていますので、大阪市においても、その小規模の学校に関しては、クラス替えができない集団的な教育活動等々に影響があるとか、そういった課題を解決していくためには、やることが必要ということで、今のところ中学校については、個別に検討して判断しているというような形になります。
- ・ 築港中学校のことにつきましては、大阪市教育委員会と、港区長であり、区の教育を司る長としての区担当教育次長として、教育委員会の立場を山口区長は兼ねていますので、例えば生徒数の見込みですとか、その跡地の活用の防災のこととか、もちろんそのまちづくりの視点も踏まえて検討を重ねまして、築港中学校の今の人数の状況を考えた時に、子どもたちの教育環境は、一定の集団規模という形で確保しなければならないというふうに私たちは考えまして、今この計画を進めるということにしております。
- ・ その進め方につきましては、いわゆる条例・規則という形ではないので、小学校の進め方に準じて行うというような形でご提案をさせていただいているところです。

① (築港地域の方) 31:54

- ・ 今のお話聞いていますと、結局は人数だけなんですわね。
- ・ これを判断された基準というのは、それ以外に具体的にどういうことがあるからこうしようっていうのが無いように聞こえました。
- ・ 子ども的人数が減ったから、とにかく合併するんやと、それでよろしいですか。

(笹田 教育委員会事務局学校適正配置担当課長) 32:23

- ・ 一定規模を確保しなければならないという考え方においては、おっしゃるとおり、学校の適正な規模、子どもたちの教育環境としては、一定の規模が必要だというようなところで、教育委員会としては進めてまいりたいというふうに考えております。
- ・ ただ、それはその数だけの話なのかというようなことでお話あるかもしれません。
- ・ けれどもそこは、築港地域の教育環境というようなことも視点も踏まえまして、区役所と一緒に検討したものでございます。

①（築港地域の方） 33:05

- ・ 私が申し上げているのは、子どもの数の問題も非常に大事なことやとは思いますが、それじゃなくて、まちづくり。
- ・ まちそのもので、学校はいろんな役割を果たしてるんですね。社会教育や防災、あるいはその地理的な立地条件そういうものを本当に考えられたのかと。考えていたら説明してください。考えていないように思います。

（山口 港区長） 33:46

- ・ お答えします。区長の山口です。
- ・ 防災の観点におきましては、この町は本当に津波のリスクが高いエリアですので、ご心配はごもっともだと思います。小学校、中学校ともに避難場所として使われていることも知っております。
- ・ 学校再編というのは、他の区でも行われておりまして、生野区でもそうです。
- ・ また、別の区でも行われているんですけども、学校跡地に関して先ほども説明ありましたが、大阪市としては、かつては全部基本的には売却であるというところを、今は防災上の理由とか、そういったその地域の拠点であるというところも踏まえて、必要な場所と認められた場合は、跡地として残し、いろんな地域の方と活用方法また防災訓練のやり方、避難所としてどう使うかということもしっかりして、地区防災計画なんかに入れながら残すという方向性になっています。
- ・ そのことを踏まえて、築港の避難所として、防災上のところは確保するという前提のもとに、まずは子どもたちの教育環境の改善というところも、やはり考えないわけにはいかないので、こういった案をお示しさせていただきました。
- ・ もう1点、まちづくりに関しては、その中学校がなくなったら寂れてしまうというようなところも勿論、今までもいろんな再編の中で聞こえてきたところです。
- ・ 中学校を特にそのなんて言うんですかね、ここは以前、港中学校だった時代をご存知だった方も多く、やっぱり数だけと言われてしまうとそうなのかもしれないですけど、これだけ子どもの数が減っている。もう300人、そして将来的に300人を切って257人に2つの中学校を合わせてもなってしまうというこの状況で、何もせずにその学校2つを残しつつというのが、非常に教育環境としては厳しいということで、一定この案を作らせていただいたところです。

②（港晴地域の方） 36:14

- ・ 子どもの数が少なくなって、私は逆に子どもにとって非常にいいことになっていると思うんですよね。
- ・ その一定の数を確保せないかんというね、少ないからということで、今、現実に港区、また港晴地域の西部地域ですね、子どもらがこういう支障があるというようなことがね、具体的に教えてほしいと思います。
- ・ それともう一つは、その学校選択制ということで、朝潮橋駅の信号でね、待っていたら、何グループか、大人の方が子ども5人、10人連れて、田中方面行くわけですよ。
- ・ その学校選択制、要はその地域の小学校とかに行かずに他に行ってしまうと、これの影響もやっぱりあるんじゃないかなと。
- ・ そうするとですね、少人数の学校を作ったのは当局じゃないですか。マッチポンプですよ。そういう状況を作っておきながら、もちろんその生徒全体が減っているというのはあるんですけども、さらに拍車をかけてね、そういう制度をするというのは、これはおかしい。
- ・ 学校を減らして、そういう下心があってそんなことしたんじゃないかなっていうふうなね、そういうふうに勘ぐらざるを得ないということですね。
- ・ それと、これ以前ちょっとインターネットを見ていたら、築港地域天保山まちづくり計画という、これは行政側が出してアンケートを取っているんですけどね、そこで地域に住みたいと思うのに何を重視するかというところで、教育環境、これがね54.7%、教育環境を重視すると、要はその地域に買い物もできて、医者もおられて、子どももその教育が十分というところがね、その町に住む意味での魅力になるんですね。
- ・ 私の知り合いでね、港晴に住んでいますけども、すぐ近くに空き地があって、今度、新築ができた。そこを買ったのが私の知り合いの子ども。「なんでここ買うの」と聞いたら、「小学校近いから」と。
- ・ そこなんですよね。小学校や中学校がなくなってしまったら、その地域っていうのは魅力がなくなってしまう。そこに住もうという気がなくなってしまうということになると思うんです。
- ・ そんなことになったら、さらに子どもは減っていくということになるので、まちの活性化のことも考えたら、やっぱり小・中学校は減らすべきではないというふうに思います。
- ・ それと少人数が悪いなら、過疎地域の小学校の1年生から6年生まで、一つのクラスでやっている地域の学校のね、子どもたち、これがダメなんですかね。
- ・ そんなことじゃないと思いますね。一人一人の子どもに行き届いて、今教育問題でね、一番その親が心配するのは、いじめの問題。子どもは詰め込み教育や、その必要以上のね、競争の中に追い込まれて、先生も子どももストレス満杯ですね。
- ・ そういう中で、やっぱり一人一人の力をね、伸ばす教育をするためには、やっぱり人数が少ない方がいいと思います。
- ・ それとね、あなたたちの計画では、どんどのこのまま減っていくと、なんでその大阪市の行政側が、住民のその人口をね、増やすことを考えへんの。IRやってからね、いろいろ書いていますわ。それで成功さすんやったら、人口増えるでしょ。
- ・ そのベースの人口の問題が、どんどん減っていくという前提で話をされている。
- ・ やっぱり、その行政つかさどる人間やったら、やっぱりこの地域で住む人たちが、本当に住んでよかったなど、また他所からね、港区は教育、クラスが少ないから先生の目が行き届

くと、いじめも少ないというようなことやったらね、港区の魅力どんどん上がってくると思っています。その観点で考えてほしいと思います。

(早川 港区役所教育担当課長) 41:57

- ・ 今のお話の中で、小規模校でよいのではないかという、小規模の利点ということでは、6ページの方に「小規模の利点と課題」ということで書かせていただいているんですけど、たしかに、まとまりやすいとか、行き届きやすい、きめ細やかな指導がやりやすいといった利点もあるんですけど、なんか影響あるのかということをお尋ねになっていただいたんですけど、あのはっきり目に見える形ではないかも知れないですけど、いじめとかがあった場合に、クラス替えができないっていうのがあって、クラスが3クラス、学年3クラス、4クラスあった場合、誰か不登校になった原因がいじめであった場合に、クラス替えができなかったら、その学校に戻れないということもあると思うんです。
- ・ それが3クラス、4クラスあったら、クラス替えによってその子と一緒にのクラスにならないように、そういう具体的にそれがどうかどうかっていうのは、学校現場の方に聞いてみないと分かりませんが、そういうのも実際、私の身近でもありますので、そこは小規模校のいいところと悪いところで、課題というところが、総合的に考えて、国としても大阪市としても適正規模にしていくべきだということで、条例等もできているので、国のほうの考え方もそうなっているということです。

② (港晴地域の方) 43:38

- ・ クラスを変えることで、いじめがなくなる、そのいじめられている人が、他所に行ったらターゲットを失うから、また別の子がいじめられる。そのいじめの問題を根本解決する。教育者としてね、子どもに寄り添って、いじめる子というのは、いろいろな問題を抱えていると思うんですね、悩みとか、いろんなことがね。
- ・ それこそ競争教育の中でね、自分の願いと違うというかね。そういった環境に置かれているという中で、いろいろストレスのはけ口というのが弱い方に行くわけですね。
- ・ だからそのところを解決なしにね、ほったらかしにしといてね、クラス替えできるような状況にしたい、それでは結局、根本解決にはなりませんよ。

(山口 港区長) 44:43

- ・ よろしいでしょうか。山口です。
- ・ まず、いじめに関してだったり、不登校に関しては、どんな規模の学校にでもあります。小さい学校だからといって、無いわけではありません。
- ・ それは、今のその小さな学校規模の学校長たちに、その具体的なことを言わせるわけにはいきませんので、代わりになるかわかりませんが、浪速区で3年間、小規模校1学年1クラスの小学校の校長をやっていたので、当時の話でいくと、やはり全ての子どもたちにとって、いろんなケースがあるんです。
- ・ ここで今私は、もう、この小規模校でみんなと兄弟みたいに育て、とてもハッピーだ、それでもう、なんか意思疎通もしやすいし、逆に言うと、中学校行って人数増えるの怖いんだっていうぐらい、仲良くやっている子もいれば、中学校行ったら行ったで、なかなかその

新しい子になじめないというような課題、それがまた高校進学の時にも続くというような、そういった集団規模が小さい中で育つことの課題というのは個々に違います。

- ・ もうちょっと人数多い子の中で紛れて、色んな関係のいろんな趣味を持った子たちと、出会って、友達作っていくほうが良いという子もいれば、慣れた友達といたいという子もいます。
- ・ これはもう一概に言えなくて、私たちは今、区担当教育次長として何をしているかというところ、各学校は、それぞれ精一杯、一人も取りこぼさないように運営をさせていただいています。そのことは、いつも少ない教職員の人数の中でやっていただいていることには感謝もしていますし、小さい学校、いわゆる本当に小規模だから目が届く、だからいいんだという単純なものではないということだけは、ご理解いただきたい。
- ・ それと、やはり教職員が先ほどもありましたけれども、どんどん若年化していること、若い教員で経験不足の教員が1人だけ、例えば中学校だと少ない教科・教科で担任を持っているとか、担任を1人で回している、学年全部一人で回しているといったような状況の解決もしたいという思いから、こういった適正配置、適正な規模にするということが行われているという状況になっています。
- ・ あと選択制に関してのご質問がありましたので、それに関しては教育委員会の方からお願いします。

(笹田 教育委員会事務局学校適正配置担当課長) 47:12

- ・ 学校選択制につきましてははですね、いわゆるその子どもや保護者が入学する学校を選択できることですか、開かれた学校づくりを推進するといった観点から、保護者が就学前に学校を選べるという制度になっております。
- ・ それで一方、学校適正配置ですけれども、こちらの方は、小規模化した学校について、統合などにより一定の規模を確保して、子どもの教育環境を改善するための取り組みですので、取り組みの目的そのものが、まずは異なるということをご理解いただきたい。
- ・ それから、この今の再編の案で検討している学校につきましては、例えば、やめたとしても、その小規模の状態が、もともと小規模の状態にあるというようなことで、解決できないということで、今、提案をさせていただいているところです。

③ (市岡地域の方) 48:34

- ・ すいません、前回は聞いたんですけど、やっぱり理解できなくて、メリットのところはね、安全面にも、小規模校の方が安全にもメリットがあると思うんですけど。
- ・ それと絶対に防災の拠点ですからね、そのへん、地域協議会の予算も減らされていますから、そのへんのことをもっともっと活発になるようにしていただきたいのと、学校教育のことを、やっぱりあのお母さん方のね、意見が大事だと思うんですけど、防災の拠点やいうことを、地域で話をもっともっと活発にしていかなあかんと思います。
- ・ 安全、安全面ではね、少人数1クラス、少人数の方が絶対に安全で行き届くでしょ、家との連絡もできるし、人数的に1校につき一人の校長いてるんですから、人数はどうしても多くなると思いますよ、職員さん。

(早川 港区役所教育担当課長) 50:04

- ・ 先ほども申しましたとおり、小規模のメリットもあるんですけど、やはり教員の数というのが、その児童とか生徒の少ない学校については数も少なくなるということで、1クラスで目が届きやすいというのがあるんですけど、学校全体を見たら先生の手数が少なくなってしまうって、前回、山口区長もお答えになったんですけど、それで見逃してしまう経験の少ない、浅い教員の方が多くなってしまいうというデメリットもあるということです。

③ (市岡地域の方) 50:52

- ・ それは市のほうのあれで、私はね、南海トラフが怖いんですよ。そやから特区にさせていただきたい。港区を。

(山口 港区長) 51:07

- ・ ご意見ありがとうございます。
- ・ 防災に関しましては、私も着任以降、非常に力を入れて取り組んでいるところですので、まだまだ周知が足りない部分は、しっかりやりたいと思います。ありがとうございます。
- ・ 他の方、ご意見たくさんあると思いますのでよろしくお願いします。

④ (築港地域の方) 51:32

- ・ 質問なり、ちょっとまた、あのお願いなり、申し上げたいと思います。
- ・ まず15ページですが、中学校の教育環境整備の必要性というところですが、「港中学校が小規模化、または両校とも小規模化の可能性があると、築港中学校のお話になるんですが、学校選択制を、中止していただければどうなるか。
- ・ もう1点、生徒が減っているということですけども、このページの後ろに出てきますが、築港小学校はこれから増加傾向にあるというふうに判断しておられます。逆に言うと中学校の生徒も増えるということになります。違うようなお話があればいいんですけど、ここに書いてある資料の中身から行くとそうしか読めないです。
- ・ もう一つ、他校でできている活動ができないケースがあります。これはやり方次第の問題です。あくまで中学校1校でできないかどうか、他校と合同すればどうなるか、そういったことも当然考えるべきではないかと思えます。
- ・ もう1点、子どもも大人も学び合う学校規模というのはどういう意味ですか。子どもは分かりますよ、大人ってどういうことですか。それがちょっと、わからへん部分ですね。
- ・ もう1点、先ほど学校の合併については、大阪市で他にもありますよとおっしゃっていました。ここに載っているのは、生野区というふう書かれておられます。他の学校の例を見せていただきましたが、築港のような運河を挟んだような、危険な地域を含む合併は、他には見当たりません、全部、陸続きです。そこのところを十分考えないと大きな失敗を招くことになると思います。そういったことも考えてご返答お願いしたいと思えます。

(早川 港区役所教育担当課長) 54:05

- ・ まず、選択制がなければということなんですけど、資料 13 ページの方に、今現在、令和 5 年度、港中学校と築港中学校を足した数字が 300 人になっているんですけど、次に 18 ページ、港中学校と築港中学校を統合した場合のシミュレーションということで、合計の人数を書いているんですけど、下に令和 8 年度 275 人、令和 9 年度 267 人とやっぱり減少傾向にあるということで、港中学校、築港中学校ともに減っていつているということで、両校ともに小規模となっていくということになっていきますので、中学校の再編というのは、必要というふうに考えています。
- ・ あと、子どもと大人がという、ちょっと大人という表現が分かりにくいんですけど、これ教員も高め合っているということで、生徒、児童と教員という意味です。
- ・ 他校と合同で、できないかというところがあったんですけど、確かにイベントとかそういう行事とかは合同でやっていけるんですけど、日々の学校教育というところも、何回も出てきているんですけど、教員が少なくなって教育に問題が出てくるとかという課題もありますので、そこも必要と考えています。
- ・ 築港地域は、通学路が危険ということで、それは運河を渡らないといけないとか、大型のトラックが多いとかという、確かにそういう安全面の課題がありますので、そこについては、通学路の安全対策ということで、考えていきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。

(山口 港区長) 56:41

- ・ 一点すいません、運河を超えてということのご懸念ですけれども、中学校に関しましては、選択制で、子どもたちが実際に通っていたり、過去、かつて、通っていたという話も聞いているところで、本来は小学校も、これは適正配置の対象ですけれども、築港小に関しましては、やはりこのエリアが交通の面で非常に危険というところの声もたくさん保護者の方からもいただいているので、何としても私たちは、築港小学校は残す形で考えたいというふうに思っております。
- ・ ただ、それも正直言いますと、令和 11 年度に例えば、小学校 1 年生、築港小学校が増える増えると言っていますけど、何人増えるねんということですが、ここの資料にはないですけど、試算で行くと、だいたい 30 人前後で 1 クラス、要は 2 クラスにはならないんです。
- ・ それで、その子たちというのは、令和 5 年度に生まれた子どもたちの数、または転入してきた子どもの数です。そして 1 クラス 35 人というのが、今 35 人を超えると、2 クラスになるんですけども、その中に例えば、私学に行く子とか、あとは特別支援の子とかそういった形で数が減りますと、やはり単学級のまま、ずっとなってしまうとそういったところを何とか小学校を残す理屈として、まず 1 つは安全面、ただ、まだ、もっともっと遠い距離を通っている小学校の子どもたちが、大阪市内にもおります。
- ・ そういった中でいくと、築港だけ、どこまで特別なことが言えるのかというのは、私も区長として、どちらかという、区担当教育次長として、安全対策と、小学校は何が何でも残したいんだという思いで、今取り組んでいるところですし、その 1 学年あたり、あと本当は 7、8 人、もっと言えば 10 人とか転入が、どんどんあるようなまちにしたいというふうに思っています。
- ・ ただ、それがじゃあ今、保証できるのかと言われたら、正直、区役所の力だけでは保証できないので、やはり皆さんのお力もお借りしたい。空き家対策であったり、そういったまち

づくりも一緒に、これから10年、真剣にやってただけて、たぶん、令和15年ぐらいにもう一度考えなければならないタイミングが来ると思います。

- ・ その時に、やはり1クラスのままであったり、もっと減っている状況であったら、小学校の方も適正配置を考えなければならない状況になります。
- ・ 本当に小学校を残すためには、皆さんのこういった心配のお声とか、どんな特色のある学校にするかという議論もしていけないといけないんですけども、ちょっとあの、私の個人の思いだけではなく、その組織としての考えも含めて、まず築港小学校を残す形で、中学校に関しては、今今のこの男女比の偏りも、今ちょっと悪い中で、行事は一緒に合同でやったり、学校にご負担をおかけしますけれども、修学旅行の予約なんかはもう3年ぐらい前から考えないといけない。そういったいろんな面も考えて、やっぱり中学校は早く仲間を作ってやりたいなという思いでいます。
- ・ 参考までに築港中学校で一度、子どもたちと話をしたことがあります。
- ・ 3年生と担任の先生が気を利かして、「自分らこんな少ない学校で、区長なんか考えているみたいやから、自分らの意見言い」というふうに言った時に、子どもたちに言われたのが、「今からされたら僕ら困る」と。中3の春でしたので、それはそうや。でも「やるんだったら1年生の時からしてほしかった」とか、「ある部活の人数が少なすぎて出られるべき場に出られなかった」こととか、逆に言うと、でもみんな「上下、異学年で仲がいい学校やと思ってる」という思いとか、その辺を語ってくれたので、何とかあの子どもたちの思いというところが、全員が全員、もちろん同じ意見ではないと思うんですけども、より仲間にたくさん出会える環境を作りたいというふうには思っているところです。すいません、長くなりましたが、以上です。

⑤（築港地域の方）1:01:28

- ・ 卒業生の親です。先ほど質問された方で、18ページの築港中と港中の統合シュミレーションが、統廃合がなかったらというふうな答えの中で言われていたと思うんですけども、これが学校選択制がない場合でのシュミレーションなんでしょうか。
- ・ それを聞きたいのが一つと、あと学校再編とまちづくりについてのところで、学校再編を機にと書かれていますけども、私はこの学校再編になる前に、ちゃんとまちづくりをしてほしいというふうに思っています。
- ・ 病院はないし、やっぱり子育て世代が住みたいと思えるまち、小学校も中学校も歩いて行ける距離にあって、病院もあって、小児科ないですよ、今、なんかそういうのも、ちゃんと誘致してもらえそうな区政をして、作ってほしいと思うんですけども、いかがでしょうか。
- ・ あと学校選択制について、うちの子が通っていた時に施行されたので、その説明会の時に反対を言いました。でも、まあ、無理矢理やられてしまったというのもあります。
- ・ その学校選択制の影響ですね、もし学校選択制がなかった場合のシュミレーションも出してほしいと思っています。
- ・ 築港ではないですけども、池島、八幡屋、港晴のあたりから三先小学校、田中小学校にね、選んで行ってる方もいらっしゃいます。
- ・ さっき港晴の方が言われたみたいに、朝潮橋、保護者が付き添って、田中小学校まで行くという姿も私も何人か見かけております。

- ・ まあ、そういう、前回も私、あの港中での説明会の時も、質問させてもらったんですけど、何人ぐらいがいてるんですかという質問したんですけど、数は答えてもらえませんでしたので、学校選択制がなかった場合のシミュレーションもどこかで出していただけたらと思っています。

(早川 港区役所教育担当課長) 1:04:10

- ・ すいません、さっきの説明で18ページ、これが港中学、築港中学の合計の数字なんですけど、23ページの方に、今の4小学校の1年生から6年生の児童数が載っているんですけど、ちょっと合計のほうが無いんですけど、この中で港晴小学校と築港小学校が築港中学の校下ということで、それで、八幡屋小学校と池島小学校が港中学の校下ということなんですけど、数字をこれ4小学校の各学年を合計したんですけど、各学年とも4校合計は100人に満たないということで、だから今、両校を足して、令和5年度300人なんですけど、それが変わらない、その八幡屋と池島の合計と、港晴と築港の合計を足したら、それぞれを比べたら、ちょっと数字が出ていないんですけど、ほぼ同じということになってるんです。
- ・ だから学校選択制がなくても、各校約50人足らずぐらいの人数になってしまうということで、ちょっとこの表でシミュレーションにはなってないんですけど、数字的にはそういうふうになっています。

(地域の方)

- ・ 分からんという声がありますけど。

(早川 港区役所教育担当課長) 1:05:10

- ・ この小学校の23ページの人数ですけど、6年生というところが、八幡屋小学校が合計30人で池島小学校が12人で、これを足したら42人になるんです。
- ・ それで港晴小学校の6年生が27人で、築港小学校の合計が25人ということで、足して52人なんですけど、この年は港晴と築港を足した人数がそのまま、仮定として築港中学に行った場合ということでの数字になっています。
- ・ それを各学年比べていくと、ほぼ両校とも40人、40人台ということになるということです。

(地域の方)

- ・ それは、学校選択制がなかったらというシミュレーションでいいんですか。

(早川 港区役所教育担当課長) 1:06:49

- ・ 確かに学校選択制で、今、築港中学校が少なくなっているというのはあるんですけど、選択制がなかったとしても、両校とも少なくなっているという数字になっています。

(山口 港区長) 1:07:06

- ・ あとですね、あの、まちづくりをもっと先にしておくべきではなかったのかということで、実際に、築港地域には「天保山まちづくり計画」を作ったりや、「エリア別活性化プラン」というところで様々に取り組んできたところです。
- ・ また、そうは言いながら、なかなかその子どもが増えない。
- ・ 選択制の課題、重々承知なんですけど、とにかく西部地域全体の子どもが増えていないことに対して、行政として私は引き継いだ立場ですけれども、それは責任を感じるころではあります。
- ・ いろんな課題があるんですけども、少なくとも今選んで住んでいただいている人たちのその思いとか、またですね、病院がないことに関しては、これも調べてみたんです。結局、小児科がないというのはやっぱり子どもが少ないからどうしても出店しても利益が出ないから出てくれないというところを、何とかならないかということで、よくあるパターンが、薬剤師のいわゆる調剤薬局の方がビルを丸ごと、だいたい買ったり借りたりして、そこに眼科とか小児科、内科、整形外科とかを誘致して医療ビルを作って、その医療を支えるというパターンとか、本来、公的にそこはやるべきなんじゃないかというご意見は、そこはまた伝えてはいきますけれども、そういう状況になっているところです。
- ・ かつて、たくさん本当に子どもがいて賑やかなまちだったと思います。その時のもちろんお気持ちを持っている方もいらっしゃると思います。
- ・ 一つには行政が作ったまちの側面もありまして、港湾局があったりだとか、そういったところの行政のいろんな組織があった時代、またそのもっと前で行くと、毎日のように船が四国から止まっていて賑やかだった時代、そういった時代に、大変子どもがベビーブームもあって増えた。
- ・ その時に増えて、ただもう本当に全国的な少子化が止まらない中で、今、本当に国でも少子化対策の議論をしている中で、学校の数が変わらない、この状況をどうしていくのというところもありまして、今こういった案をお示しさせていただいているところです。
- ・ まちづくりに関して、いろいろ取り組んでいかないといけないということは強く思っています。ご意見ありがとうございます。

⑥（築港地域の方）1:09:53

- ・ すいません、この冊子に載っていることではないのですが、築港中学校では、東日本震災の時に、中学生が小学生の手をつないで高いところに登って避難したという例を聞いて、その当時の校長先生が「中学生は地域の力だからジュニア防災リーダーを要請しよう」ということで考えました。
- ・ そして、その時に区役所の方もその意見に賛同していただきまして、地域の防災リーダー、築港会、PTA、学校元気アップがタイアップしまして、行ってきております。
- ・ これは中学生は本当に地域の力です。この築港中学校をなくしたらどうでしょうか、この地域はどうなるでしょう。どうぞその辺のところよく考えて、進めていただきたいと思います。

（若林 港区副区長）1:10:58

- ・ すいません、ただいまですね、防災の点につきまして、ご意見ございました。

- ・ 学校の施設ですとかですね、例えば、申されましたジュニア防災リーダー、これがですね、こちらの地域防災において役割を果たしてきたということ、そのことにつきましてはですね、私どもとしても認識しているところでございます。
- ・ そのため先ほど来、区長からもご説明あったようにですね、まず学校の施設につきましては、お配りしている資料の中にもありますが、基本的には売却せずに残すことを前提に検討を進めることとして、災害時には避難場所として使用できるような条件をつけて学校跡地活用の事業者を公募していくというふうなことを考えてございます。
- ・ また、ご指摘ありました、ジュニア防災リーダーの養成講座あるいはその防災事業といったものにつきましては、原則、中学の2年生を対象に、港区内の中学校で実施するというものでございまして、学校再編後も、そのジュニア防災リーダーの制度そのものがなくなるということではなくて、これまでと同じようにそれぞれの生徒さんが通学する中学において、学ばれた様々な防災スキル、それをですね、それぞれのお住まいの地域でもって発揮できることができますし、また、それがきちんと発揮できますように、区役所としても中学校と連携しながら取り組みを継続してやってまいりたいと思っております。以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

(山口 港区長) 1:12:45

- ・ 中学生は地域の防災の担い手であると、私はやっぱり申し訳ないですけども、親の一人でもありますので、なかなかそこを、そこだけに頼ってはいけないと思うんです。
- ・ それぞれの地域で、今、防災リーダーさん、また水防団の方も非常に高齢化しております、若い担い手が少ないというところはもう喫緊の課題としても聞いているところです。
- ・ 中学生のうちから、しっかりそのジュニア防災リーダーという形で、地域の方と一緒に防災訓練をしたり、自分たちはどこに逃げるということを地域の方と一緒に訓練したりして意識を高めるということは大事だと思っておりますし、学校再編をした後も、学校跡地を使った防災訓練だとか、また、これは別の区の事例ですけども、小学校区で卒業生も一緒に毎年、防災キャンプといって学校に泊まって防災キャンプを続けることで、中学校は、実際、小学校区から離れてしまうんですけども、中学生が地域に関わるようになったという事例もありますので、また、いろんなその事例なんかも紹介しながら、また区役所もしっかり後押しできたらというふうに思っております。

(笹田 教育委員会事務局学校適正配置担当課長) 1:14:11

- ・ すいません、先ほど、お一人前の方で、「学校選択制で三先小学校や田中小学校に、どれぐらいの数が行っているのか」というご質問にお答えできていなかったと思うんですけど、ご質問の趣旨はそれでよろしかったでしょうか。
- ・ 港区の学校選択制においては、導入前からご意見いただきながら検討しまして、今、選択制、小学校の範囲をですね、隣接型という形にしまして、お住まいの通学地域に隣接する学校に限っているところです。
- ・ ご質問のありました学校選択制の希望調査の結果につきましては、例年11月上旬に1回目の結果を公表して、11月下旬に最終結果という形で港区のホームページで公開しております。

- ・けれども、ただ、どの学校の通学区域でお住まいの方が希望なのかということにつきましては、ちょっと個人が特定される恐れがあるので、公表してないということです。
- ・ちなみに、昨年度の港区西部にある小学校の通学区域以外からの希望者の数を申し上げますと、三先小学校では通常が13人、特別支援学級1人、田中小学校では通常学級4人、特別支援学級1人、八幡屋小学校は通常学級6人、特別支援学級1人、築港小学校は通常学級0人、特別支援学級も0人、港晴小学校は通常学級1人、特別支援学級1人、池島小学校においてもいずれも0人という形になっております。
- ・ すいません、港晴は特別支援学級の数が0人ということです。

⑦ (地域の方) 1:16:22

- ・ 先ほどからお話にあるその選択制、学校選択制なんですけど、その選択制は取り組みの目的そのものが統廃合の問題とは違うという返答があるんですけど、あの2012年の1月5日にね、毎日新聞報道してましてね、市立小学校、あの大阪市立の小学校3分の1が統廃合対象やと、ここからスタートしてるんですけど、当時の橋下市長はこの時に記者会見してましてね、統廃合は喫緊の課題なのに住民の合意がどうのこうのと言ってたら何も進まないよ。
- ・ 学校選択制で選別にさらし、統廃合を促すしかないというのがスタートなんですよ、選択制の。
- ・ だからあの目的が違うというのは、ちょっとそれは、教育委員会の人として認識が、私たち違うんじゃないかなと、あくまで選択制のスタートの時に市長が言ってるのは、統廃合をすすめるならんから選別にさらすんやと。それがね、結果としてまあどうなってるかって、やっぱり減ってきているから、さらに選択されないという、そういう傾向になってきてるんじゃないかというふうに思います。
- ・ もう一つはその統廃合された後ですよ。浪速区の塩草立葉小学校というところがありますけど、約10年前に塩草小学校と立葉小学校は統廃合されて、当時その学校、それこそ人数が減っているからしょうがないというふうでやられましたけど、わずか4年後に予想以上に児童が増えましたと言われて、運動場に校舎を建てざるを得ない、第2グラウンドを作らざるを得ない、そういうことが実際に近年の大阪市の見込みで起こっていることでして、ですから今日のような5年間の推計を見せられても、その選択制との関わり一つとっても、よく分からへんというような状況のもとで、ほんまにこれ信用してええんかな、ということが非常に大きい問題として私自身は思っています。
- ・ 本当に結局やっぱりまちづくりの問題としてどうかということが、ほんまにあの問題として思っていて、区長さんも、その私これすごいいいなと思って、その1月にその区長さんがね、あけましておめでとうございませう、てるてるだよりのところでね、2045年には港区の人口10万人にするという目標設定されて、毎年1000人、港区の人口を増やすんやと。そのために子育て世代向けの住環境を整備し、子育て教育環境を充実させるというお話をされていて、これ今年の1月に区長さん自身がそういう思いを出されていて、学校教育環境の充実ということで言ったら、やっぱりこの時点で学校をなくしていく、特にこの築港の中学校をなくすという話を、今ここでやるべきなのかというふうに思っています。
- ・ 選択制のことについてと、推計についての信憑性について、お答えいただけたらと思います。

(笹田 教育委員会事務局学校適正配置担当課長) 1:19:58

- ・ はい、ありがとうございます。学校選択制に関しましてはですね、当時そういう、橋下市長の発言があったかもしれませんが、その後、子どもたちに就学できる、就学の際に学校を選ぶ仕組みを作るという中で、就学制度、いわゆる校区の学校にしか通えないという制度だけではなくて、その就学というのを、もうちょっと柔軟に制度をできないかというような形で、教育委員会は教育委員会として、子どもたちの利益を図るため、子どもや保護者が意見を述べて学校を選択できること、学校に関心を持っていただくこと、特色ある学校づくりが進むこと、というような、そのどういう期待されるメリットがあるかというようなこととか、そういったことの観点から、PTAの代表の方とか学識経験者の方とか、それこそ公募の委員の方々から熟議という会議を重ねまして、この学校選択制という制度については作り上げてきたというケースがありますので。
- ・ 実際に、区において導入する際においても、今回、港区の場合は、隣接型という形をとっていますけれども、その各区の区内の学校の状況とかを踏まえて、どういった制度がいいのかと言ったところを、まあ区政会議とかも含めて、練って練って、あの学校選択制という形で今の制度があるというふうに考えているところです。

(地域の方)

- ・ 後付の理屈ですやんか、そんなん。もともと動機が統廃合するというのがあって、それは市民に飲ますために、あれやこれや、有識者が寄ってたかって、後付けをしとるだけの話です。

(笹田 教育委員会事務局学校適正配置担当課長) 1:22:08

- ・ 学校選択制に関しましては、もちろん賛成、反対いろんなご意見があります。
- ・ 制度が発足して、ちょうど制度を利用した方々が入学をされて、卒業といったような一定の期間が経ったところを踏まえて、令和4年に学校選択制に関しては検証を行っております。
- ・ その際にですね、検証結果によりますと、学校選択制が良い制度と思うかといったアンケート結果においてはですね、小中学校の保護者ともに全体として、約7割の方が良い制度だと思うと回答されまして、制度そのものについては肯定的に受け止めていただいていると、それから学校選択制を機に深い関心を持つようになったと思うと回答された方は、小中学生の保護者ともに約6割という形になっております。
- ・ 教育委員会としては、引き続き各種の取り組みに努めてまいりたいというふうに考えております。
- ・ この度、学校再編の対象となる小学校におきましてはですね、通学区域内の児童が、国立や市立の小学校、それから外国人学校に入学する児童、学校選択制で入学する児童がいない場合としても、先ほど話がありましたとおり、1学年における学級数が、1学級になる学校が大半であるというようなことをもって、今このご提案をさせていただいているということです。以上です。

(山口 港区長) 1:23:48

- ・あと補足させてください。浪速区の塩草立葉小学校の件なんですけれども、確かに私も当時、浪速区の小学校の校長でしたので、再編を行い、その後、西区から流れてくる部分もあるんですけれども、マンションの開発がいくつかあったということで、子どもの数が増えたのは事実です。
- ・それで実際に、校舎を建てているところですので、あのもちろんそういった要素がないかというのは、24区のほとんどが今、学校適正配置対象校を抱えておまして、それぞれの区長また区担当教育次長でもあるんですけれども、いろんな意見交換を勿論しております。
- ・ある地域におきましては、今後、開発がもう予定されている、それも700戸、1校の小学校区に700世帯子育て世代向けのファミリー向けの住居が供給される時は、全学年単学級から複数学級になる可能性があるのも、一旦、開発の様子を見るということになっています。
- ・そういった土地があるかとか、開発の余地があるか、また当然、誘致もしなければならないというところで、私たちも何もしていないわけではありません。
- ・みなと中央病院跡地が大変大きな課題であることも認識しておまして、また、そこに関しては、公表されるのはもうちょっと後なんですけれども、一定、今後、建て替わって、何か新しい、それが子ども向け、子育て世代向け住居になって、何戸入るかなんていうのは今、全然わからないんですけれども、少なくとも7年はこれから新しいものが建つまでに時間はかかります。
- ・そういった中で、まずは中学校の問題を解決したいというところで、こういった場を持たせていただいている、あまりちょっと政治的な話とかはしたくはないんですけれども、全国的にやはり少子化の中、今、学校再編で検索すると、ありとあらゆる自治体、特に地方都市、もうどうにもなくなっていて、今、20キロを超えて通う小学生が8%を超えています。全国的に見たときにです。
- ・当然、あのスクールバスを出したり、いろんな公共交通も使ってるんですけれども、公共交通のインフラすらしんどいようなエリアになると、やはり学校適正配置、再編というのは、もう全国的な課題として取り組んでいる。
- ・大阪市においては都市型であることもあり、また本来、30年ぐらい前から議論しておかなければならなかったことをしてこなかった経緯もあるので、ずっと単学級のまま、そのまちに学校が愛されてある。私もその学校の一つで、今度150周年を迎える学校の校長、全学年単学級の中で運営していましたが、そういった状況が続いて、地域の方の思いが強いことも、また、中学校も同じように大事に思い、愛していただいていることには本当に感謝をします。
- ・あまり地域の方は、中学校のことには関心持たれないことが多いので、本当に今日こうやってたくさんの方に来ていただいて、いろんな思いを伝えていただいたことはありがたいんですけれど、まあ、おいた話「やるんやろ」と言われたら、「やらせてください」としか言いようがないんです。
- ・じゃあ、何もしないまま、このまま40人、30人と2つの小規模を置いておくことが、今、大阪市に規定がないからといって、やらないという選択肢はもちろんあるのかもしれませんが。じゃあ数年おきましょか、じゃあ港晴さんから港中学校に行く、選択制を止めるということを、じゃあ皆さんで全員の保護者の方の納得も、今まで行けていたのに、お兄ちゃんたち行けていたのにという声を、やっぱり説得して、じゃあ止めたとしても、やはり港中学の方が、また小規模化していくというこの状況に対して、今、皆さんと一緒に考えていただいて、最終的にどうするのかと、今、別にここでまだ、教育委員会会議にかけなければな

りませんし、市会というのもありますので、なんですけれども、中学校の状況を何とかしてあげたいなというのは思っている。私たちみんなでいろいろ話し合ってきて、学校現場の声も聞いて、今ここに至っているところです。以上です。

⑧（築港地域の方）1:28:22

- ・ 失礼します。お話を聞いていましたら、学校を教育の場としてしか捉えていないとそのように感じます。
- ・ 小学校、中学校、災害が起きた時に避難所になります。これ小学校、中学校しかありません。
- ・ 投票所になります。地域でいろんな盆踊りや、敬老会や防災訓練だったり、そんなことの場所になります。
- ・ また、生涯学習やっていたり、地域の方がスポーツ活動をやっていたり、いろんな形で利用させていただきます。
- ・ 私は防災に関心がありますので、その面からいきますが、ちょっと資料古いんですけど、これ区役所から防災計画を作る際に、言われた数字なんですが、平成29年9月住民基本台帳です、人口6000人です。そのうち、高齢者1754人、29.2%の高齢化です。津波の際の避難推定数、夜間2042人、昼間は、築港は9463人になります。
- ・ 今年の5月16日の区役所の発表によりますと、避難ビルの確保状況は、昼間74%しかない、9463人のうち74%しか避難できないと、若干の数が、現在とベースの数が違うんですけども、2400~500人は逃げ場がないと。現在において。
- ・ 夜間2042人の方は、当然、小学校、中学校は避難所になっていますよね、避難ビルになっていますね。ここへもう逃げなあかん。特に避難所となった場合に、長期になった場合に小学校しかいないんじゃないんですか。
- ・ その2042人、もし中学校がなくなったとして、築港小学校で2000何人、引き受けられませんよ。足らんのは八幡屋でも行くんですか。八幡屋の方たち、快く築港のそういう500人か、1000人、引き受けてくれるんですか。
- ・ 私たちはそういうことが担保されないと、もしくは同時に話が進まない、この話はちょっと受け入れるわけには参りません。そのあたりは教育委員会さん、どのようにお考えなんですか。

（山口 港区長）1:31:23

- ・ すいません、防災のことは区役所の所管になりますので。
- ・ 先ほどからお話しているとおり、小学校はとりあえず残して、築港小学校のまま、避難所としても、今までどおり機能する、それで中学校は、学校跡地として残して、その定期借地という手法があるんですけども、いろいろ、例えば、地域の方の避難先としての確保とか、毎年の避難訓練を一緒にやるとか、そういった諸条件を話し合った上で公募という形、その条件に当てはまる事業者さんに来ていただきます。
- ・ もう生野区で学校跡地4つぐらいそういった形で、事業者がすでに決まっているところですので、避難所としての今の小学校、中学校両方とも機能としては残るということはお約束します。

- ・ ちょっとだけすいません、お約束しますと言い切って、私のまた、今一人の発言になってしまっているの、本当にあの跡地を残すというのは、簡単に今、私言いましたけれども、生野区の場合は、住宅密集地だったので非常に特例ではあったんですね。
- ・ その時に制度を作って、学校跡地はやはり防災上の課題があるところは、地域の方のまた要望もしっかりあるところで、事業者の活用とかも見込めるところは総合的に判断して残して、避難所としても、引き続き避難先として、活用するというのがお約束できますので、今、私のこの一言は、ちょっと先走ったかなと思います。
- ・ ただ、その方向でしっかりしたいと思うので、もし、その議論を並行してということであれば、例えば生野区の学校跡地を見学と一緒にということであれば、すでにインターナショナルスクールとか、事業者が入ってオープンになっていて、どんな避難訓練と一緒に地域の方としているのかとか、そういったところの情報はありますので、またお伝えしたいと思います。

⑨ (港晴地域の方) 1:33:39

- ・ すいません、先ほど選択制の件でたくさんあって、この13ページにもあるんですけど、10年前に選択制が、そうですね、25年から始まって、2、3年後から急激に減っているのは、選択制で生徒が他校に行ってるからということで、いただいた資料の4ページに、「学校選択制においては、児童生徒や保護者に学校を選択する権利があり、選択する学校を制限することはできませんが、小規模校になっている原因や、それによる児童生徒への弊害などがあるのであれば、その課題を解消していくことが必要である」と書いています。
- ・ 自分の都合の良いことばかりの統合する方向ばかりを考えて、そういうこともしっかり考えていただきたい。
- ・ 僕、今日一番言いたいのは、築港中学が今ね、少子化で人数少ないです。
- ・ ただ、むっちゃ良い中学校です。ここ4、5年、つい最近も言われたんですけど、出前授業とかあって、そういう時に、築港中学の生徒は、ほとんどが手を上げるらしい。
- ・ 今年だけじゃないですよ、今までずっとこの5、6年ずっとです。僕の長女がちょうど10年前に築港中学校へ入学したんですけど、そこからずっと、いてる先生がいてるんですけども、7、8年前から当然補導や警察沙汰は一切ありません。
- ・ 私は教育委員会の人に言いたいんです。こんな中学を、日本の見本となるような中学を廃校にして追い込んでいいんですかと。教育委員会は何を教育してるんですか。
- ・ それともう一つ、残念なのは、僕は区長によく、小規模が何で悪いんですかと言っているんですけども、逆じゃないですか、少子化やから、子ども減っていくから、学校なくすねん、違うよ、少子化に歯止めをかけて子どもを増やしていくから残す、子どもたちに学校を残してあげるのが大人の考えやって、そういうね、政治家や行政の人や、教育委員会の一人もいないんですか。私はそれが一番言いたい。
- ・ 本当に子どもたちのことを考えてやっているのか。今、築港中学校の子どもたちは、他の中学行きたくないですよ。こんなにみんな笑顔で、知っていますか、築港中学の生徒はね、昼休み、小学生みたいに運動場で遊ぶんですよ、そんな中学校、全国にないですよ。
- ・ こんなすごい見本になるような中学を廃校に追い込むような大人、残念ではがありません。ただそれだけです、すいません。

(笹田 教育委員会事務局学校適正配置担当課長) 1:37:13

- ・ 先ほどお話いただきました選択制において、課題がというようなお話なんですけれども、すいません、あの繰り返しになって申し訳ないんですけども、今、確かにあの選択制によって、子どもさんの数が減っている状態だっていうことは確かに認識をしています。

⑨ (港晴地域の方)

- ・ 1クラス減っているんです。認識していますか。本当に。

(笹田 教育委員会事務局学校適正配置担当課長)

- ・ 流出している子どもさんの数については、教育委員会としても把握をしております。
- ・ 確かに多くの方が出て行ってるという状況にはなってるんですけども、先ほどから申し上げているように、選択制をやめたとしても、学校の小規模の状況があるということに対して、私どもはやはり、教育環境の改善をしなければならない、というふうに思っています。
- ・ それで、あのすいません。先ほど築港中学校がとても素敵な学校やっていう形で、多くの方が拍手をされる、今日こういう形で皆さんが集まられたということは、本当にこの学校が小規模校がダメだって思ってるわけじゃないんです。
- ・ あの教育委員会としても、やはりあの先ほどから皆さんもおっしゃるように、小規模校であるがゆえに、例えばその子どもたちのまとまりだったりとか、先生と地域の間関係ですとか、そういった形で本当にいい形で行き届いたと言いますか、一人一人の関係だというようなことは本当に承知しています。
- ・ それで、それはもう、本当に先生方と生徒さんと保護者の方、地域の方々の本当にそのなんていうのかな、その学校を支える賜物だというふうに、教育委員会としても認識をしています。
- ・ けれどもやっぱり少人数であるからこそ、本当にその中では環境としては本当に良い部分はあるんですけども、どうしても困りごととか、問題にはなっていないんですけども、やっぱりその一定の集団規模によって必要な体験や活動ができていないというところの問題という、本当に目に見えないけどあるんですね。
- ・ それで、先ほどクラス替えの話が少しありましたけれども、そのいじめがどうのこうのだからではなしに、そのクラス替えという体験をして、新しい、例えば友達を作る、新しいクラスの環境になれる、人間関係を作っていくことで、合う子と合わない子も含めていろんな人と出会って、いろんな意見を聞く。
- ・ 合わないなという子との関係性を作るといこともそうですし、先ほど話のありました先生の配置の件ですね、やっぱり、そのまあ、もちろん先生増やせばいいんじゃないかという話もありますけれども、その全体的な教員のなり手ということもありますし、実際に、その学校の人数に応じて、クラスに応じて先生が配置されているという状況の中で、小規模校は本当に苦しい中で、やりくりをしなければならない、先生の負担も多い、そのような中で、子どものために例えば、その教育活動、授業とかに、その先生方が協力しながら高め合っていくということができないというような、やっぱり見えないデメリットというところを、やはり私たちとしては、改善していかないといけないという、そう考えて、今、この案を提案

させていただいているところです。すいません、ちょっと長くなってしまって申し訳ございません。

⑩（築港地域の方）1:41:31

- ・ 娘が小学校を卒業して、今、中学校にいます。小学校も素晴らしかったし、中学校も今、すごく機嫌よく楽しく行かせてもらっています。
- ・ 本当にデメリット、メリット言い出したら、どこの学校だってあるし、これから先、どこの学校も減っていく、その中で人集めて、ここの中学校の魅力をもっと広めて、中学校だけじゃなくて、ここは土地柄もすごく特殊です。
- ・ この土地柄を活かした中学校を作って、さらに人を呼び込む形をとるのがすごく最善だと思うんです。すごくもったいない本当にもったいないなと思うんです。
- ・ この中学校なくすというのは、本当に USJ の外人さんも前にいますし、もう海遊館もすぐそこにあります。
- ・ 海遊館で海遊館部というのがあって、海遊館の方に、いろいろ、この地の生物、カニとかいろいろいっぱいいるんです。それをね、教わったりしてるわけですよ。そんなところあります、大阪市内に。本当にね、ここはすごく恵まれてるんですよ。それをもっとアピールして、あのもっと人を呼び込めると思うんですね、私は。それを、そのチャンスを逃すんですかって、すごい思います。とりあえず、小学校はまだ、とりあえず残してもらえてっていう話を、残してもらおう方向に行きたいっていうのを区長さんの口から聞いて、とても良かったなと私は思いました。
- ・ それで小学校を残すのに中学校をなくすっていうのはおかしいって、それはなんか矛盾、すごく矛盾してるような気がして、なんかそう、せっかく小学校を残して、中学校もこれからどんどんよくして、よくっていうか、今までめちゃくちゃいいですよ、めちゃくちゃいいし、皆さんすごく関心があって、地域の方もすごく支えてくれています。
- ・ 私、子どもが通ってるから、地域の方がすごい支えてもらっているの肌で感じます。もしここから小学校が残るとして中学校がなくなったら、その地域の方々も、とても困ると言ったら変ですけども、何て言うのかな、あの皆さん亡くなります、早死にしますよっていうぐらいの私は思うんです。それでもいいんですか、本当にそんな感じがするんです。
- ・ あと南港の水都国際中学は、80人の定員のところを5倍です。今年は入試、全大阪府下から来た5倍で80人のところ400人が受けに行ったんです。
- ・ あっちよりこっちの方が絶対近いし、絶対もっと特徴、特色のある英語教育、水都さんは、英語教育に力を入れてますよね、だから築港こそ観光地です、観光地ですから、ここでもっと英語教育に力を入れたり、特徴のある学校を作るのに本当に最適な場所なのにそれを、ここにして統合して何、統合しちゃうと思って、しかもやっぱり廃校ってか統合されたら、もし私がもっとちっちゃい子どもがいたとして、小学校はいいけど中学校は遠いんかってなったら、やっぱり住むのちょっと考えると思うし、どんどん中学なくなることによって、どんどん人が減っていくのが目に見えて、それもその今支えてくれる、私たち築港おばちゃんずと、築港おじさんずって、私は勝手に呼んでるんですけど、そのとっても力強い人たちが、もう行き場のない、その力を有り余しながら、ちょっと早く死んでいくみたいな、そんなことになりかねないです。

- ・ 本当に本当にと私は思います。その辺の学校を変えていく方向をもっと提案してもらえたりしたら、私たちも、それに協力してくれる人たちがたくさんいます。
- ・ 築港には本当に本当にもったいない話だと思います。そう思いませんかというのが私の意見です。

(山口 港区長) 1:46:29

- ・ ご意見ありがとうございます。
- ・ 中学校を愛して、本当に今日は、素朴になんて素敵な地域なんだろうというふうに思っています。
- ・ これだけの方が呼びかけに集まり、私はこの中学校区単位の説明会、生野区でたくさんの学校再編いろんな地域と関わって、5年間やってきた中で、こんなにたくさん、初回から集まった説明会はありません。
- ・ そして皆さんが、それぞれに意見を言って学校残したいんだって、熱い思いはもう十分感じましたし、まちづくりにおいて何ができるんだろうということ、今、自分なりというのも変ですけども、組織としてね、あの区役所として積み上げてきたりとか、大阪市全体の取り組みの中で、築港地域をどうしていきたいということは、一定ビジョンみたいなものあるんですけど、今ここでそれを話すと、とても長くなるので、まずはどうなんでしょうね。
- ・ 私は、鶴橋中学校という中学校と、勝山中学校という中学校の学校再編、中学校の再編を平成30年の時にしたというか、自分がしたみたいな主語なのすごい嫌ですね、あの組織として、もうどうにもこれは小規模化が解消しないので、ということでやったことがあります。
- ・ その時、まずは、こういったような場がありまして、意見交換する中で、とにかく子どもたちに、特に鶴橋中学校の子がとても少なく、このまま置いておいたら、今、2年生、3年生が単学級で、このまま置いといたら、全学年が単学級になってしまうから、その前にしたらな、かわいそうやろっていうのが、結構、保護者の方、また、地域の方の声だったんです。
- ・ ただ、そこにはちょっと裏話がありまして、小学校と中学校の再編を同時にやるという、4小を一つ、2中学校一つ、一遍に再編するという案で、やはりそれぞれ皆さん、地域の方の思いもある中で、同時の再編というところが非常に話が進まない中で、中学校が、どんどんしんどくなっていったということがありまして、切り離して、まず中学校を先に再編をしました。
- ・ そのプロセスもずっと見てきて、部活動1年前から一緒にやったりとか、いろんな行事を生徒会主導で一緒にやって、仲良くなって、実際、開校式に制服も変わって、学校名も自分たちで考えたり、校歌、校章とかも、アンケート取りながら、生徒会とかも一緒になってやって、新しい学校にした経緯があります。
- ・ これ一つの事例です。それがこの築港に当てはまるとまでは言いませんし、やっぱりやりたいから言うてんねやろうと、何言うても言われんねんというのは、今、何の資料を出しても、何を言うても、そう取られてしまう中で、どうしたらいいんやろうというのが、今、私の正直な気持ちです。
- ・ だからといって、学校が困るんですよ、これも皆さん、今は選択制があるからで、本当に鶏、卵で嫌なんですけど、選択制があるので、学校説明会をしなければなりません。各学

校、今、やっぱり、とにかく自分が中学生の間に、学校が再編になるかならないかというのは、保護者としては切実だし、本人としてもそうだと思います。

- ・ そういった中、令和何年に再編なりますとか、今こういう議論があるので、令和何年になるかもしれないけれども、受験に影響のないようにしっかりサポートしますというようなことを言いながら、もう9月には、説明会があるので、どうしようかなというのが今、正直なところですよ。
- ・ あともう一つ、行政の本当に勝手な言い分だと思うんですけど、行政というのはやはり予算を取ってから、この夏ぐらいに予算を取り、市会を通し、設計の予算が取れます。
- ・ 私の一番の課題意識は、中学校もそうなんですけど、池島小学校の1年生をこのまま卒業させてはいけないという思いがありますので、やっぱりなんとか、友達もうちょっと作ってやりたいんで、何か手法はないかということも考えてもいるところですよし、1校の学校の話だけじゃなくて、1校の地域の話だけじゃないっていうところを、私はどうしても、港区トータルの区長でもあり、また大阪市全体の施策とか教育のことも考えないといけない中で、一旦この案をお示したところですよ。
- ・ そこに対して、皆さんが一丸となって、本当に皆さんが全て同じ意見とも思いませんし、実際、保護者同士の保護者の方と話した時に、別の声を聞いたこともあるし、区政会議の委員の方で10年ぐらい、やってこなかった、やっと手をつけてくれたという声もあったのは、あったんですよ。
- ・ だから今日、本当にここにいらっしゃる皆さんの思い、発言してくださった方の思いをしっかり受け止めて、また一旦、ちょっとこういった場を持たせてもらえたらなというふうには思っています。
- ・ 本当に長時間にもなっていますし、ただ、あの思いを人前でこう思いを伝えるというのは、すごく大変なことやと思うんです。あの勇気を出していろいろ発言していただいた皆さんに本当に感謝します。ありがとうございます。

①（築港地域の方）1:52:09

- ・ 跡地問題のことをちょっとおっしゃったんですよ。区長さんおっしゃったんですが、確かにインターナショナルスクールが来て、わりあい地元との受け入れられていると、よく比較的、これからなんですけども、進む可能性のある場合もありますが、一方で業者が、営業をする業者が入ってですね、地元と揉めてるというようなことも私、聞いてきました。
- ・ 運動場に駐車場を作ってますね、「地元の人が盆踊りできないやないか」と、「区役所も最初は、地域の活動は保障すると言ったが、あれどないなってん」というような声も上がってるというふうに聞いております。
- ・ そんなこともありますし、私は中学校を残してほしいんですけども、仮に仮にですね、廃校にするとしてもですね、その跡地をどうするのかということもね、具体的にマーケティングをするなりしてですね、その方向性を示してもらおうわんとですね、地元のものとしては議論ができないですね。
- ・ さっきから、そのとにかく子どもが減るんで、2つの学校を一つにしたい、あるいは、4つを1つにしたいというお話ですけども、そうするためには、これをこうしますというね、具体的な案を示していかんと、この説明書にはですね、10月には教育委員会に計画書を出すって書いてあるんですね。

- ・ できるんですか、区長の権限でされるわけですか、住民無視も甚だしいと、私思います。ここに書いてあるようなことは、撤回していただきたいと思います。以上です。

⑪（築港地域の方）1:54:10

- ・ 現在、築港中学の学校協議会で会長をしています。
- ・ いつも築港中学の運営に関わっていただいて、ありがとうございます。
- ・ あのですね、先ほど区長も、教育委員会の方も、いろいろしゃべっていただいて、決して小規模が悪いわけではない、いろんな意見があるので、決して課題というところで、ここがどうも重要ではない、というところでしたよね。でも、やはり学校再編はしないかん。でね、あの僕、ずっともう、それこそ学校にかかわって、もう現Pではないんですけども、学校教育も今回で6年ずっと関わりもたしてもらっていて、さきほど、学校教員の数が足りない、じゃあ入れればいいじゃないかと言ったら、返事がなかったんで、どうなんかなと思いましたけど。
- ・ 学校に関わってきていて、確かに小規模学校は教員が少ないです。プラスアルファ、何が大変かと聞いたら、授業を教えるだけではなく、教務の仕事、要は教育委員会から降りてくるような仕事ですよ、それが、小規模学校も、大きなマンモス校も、量が同じなんだって、だから、なかなか部活動を見てあげたいけど、見てあげることができないんだ、やっぱり、それは大変ですよ。マンモス学校も、小規模学校も同じなんであればね。
- ・ もちろんやっぱり、先ほど言われてましたよね、小規模はどうしても、生徒が少ないので、教員の数は入れられない、だったら、学校再編の考え方として、一つにまとめるのではなくて、例えばですよ、仮にの話ですけど、築港中学、港中学を事実上は合併します、何か〇〇中学になりました、それで先生は、そこの中学の所属で、頑張ってもらえば、教員は倍になって、教務の仕事の負担は減りますよね。
- ・ そして生徒は、もともとの築港中、港中で、言えば、築港キャンパス、港中学キャンパスみたいに、考え方ですよ。教員は一つにする、地域の学校は、やはり義務教育なんで、やっぱり地域で育つということもありますし、さきほどから言われている、防犯に関係することも、やはり教育ですし、これで考え方としたら、いいんじゃないかな。
- ・ わざわざ新しい校舎、小学校にしてもそうですよね。築港小は残すという話だったんですけど、じゃあ3つ、港晴、八幡屋、池島、ここ、じゃあ実際に1つにします。でも、あくまで、教員、そこに一つ、まあこれも仮に何々小学校という新しい名前付けます、教員はその所属です。でも、港晴小キャンパス、八幡屋小キャンパス、池島小キャンパスで、それぞれ担当分かれていけば、今よりもさらに子どもにしっかりと目が届くようにも思いますし、逆にどうかなと、学校再編イコール、1つにするではなくて、教員側を一つにして、キャンパスはそれぞれ、何々キャンパスという形で残せば、先生の負担も逆に減るしというふうに思うんですけども、いかがですかね。

（笹田 教育委員会事務局学校適正配置担当課長）1:58:34

- ・ ご提案ありがとうございます。
- ・ 今のお話ですと、一つの学校という体にして、校舎を別々に分けたら、今まで教員の数も確保できてという形で良いのではないかと、今までどおりでいけるんじゃないかという、そういうお話だと思うんですけども。

- ・一つの学校でキャンパスが3つ、分校みたいな形になるんですよね。そうすると、校長先生が3つの場所を一人でやらなければならないという形になるということと、その校舎がバラバラになるという事なんです。
- ・確かに今までどおり、それぞれの学校で学べるということになりますけれども、結局私たちが目指しているのは、その日常的にそのクラスの数なり、数の問題かと言われちゃったら、ちょっとそうなるんですけど。

⑪（築港地域の方）

- ・小規模が悪いわけではないと言ったじゃないですか。

（笹田 教育委員会事務局学校適正配置担当課長）1:59:35

- ・いや、あの小規模について、小規模が悪いというわけではないけれども、デメリットがやはり、あの多いので、そのデメリットの部分を解消するために、適正規模を確保したいということなので、やはり、そのやっぱり子どもたちが、それぞれそのまま単学級の状態で違う学び舎で学ぶという状況だと、先生の数という問題でも、校長先生が管理職が1人になっちゃうという、そういうデメリットもありますし、その子どもたちが日常的に同じ学び舎のところで、その多様な人間関係を作る、集団規模で学ぶという環境が確保できないので、ちょっとその提案というのは一つの案ではありますけれども、私たちが考えている小規模の解消という意味では、ちょっと厳しいのかなというふうに考えるところです。

⑪（築港地域の方）2:00:42

- ・私たちの考え方って、そこに子どもの姿はないんですか。

（笹田 教育委員会事務局学校適正配置担当課長）2:00:51

- ・失礼しました。教育委員会として、子どもの学校、教育環境の改善のために必要だと考えるという意味です。失礼いたしました。

⑪（築港地域の方）2:01:06

- ・じゃあ、適正、適正と言いますけど、適正って何ですか。

（笹田 教育委員会事務局学校適正配置担当課長）2:01:15

- ・今、大阪市で、小学校において定めているのは12学級から24学級ということで、つまりクラス替えができる規模というのを一定確保したいというふうに考えております。以上です。

⑫（築港地域の方）2:01:48

- ・いろいろ先ほどから、役所の方から、または地域の皆さん方、いろいろご意見聞かしていただきまして、確かにこの地域が少子化で、大変子どもたちが少なくなっていくために、こ

うという問題が起こってききましたんですね。それをまあ、どのように解消していくか、皆さん方ご意見色々いただきまして、なるほど、こういうふうにご考えておられたということが、よく分かりました。

- ・ その上で私も、確かにこの地域の良さですね、それを引き上げるために、学校の前の木々を切らないでくれとか、また色々なことで、この地域のグレード上げるために努力してきたつもりなんですけどね、それを皆さん方、いろいろ、その学校を再編成する、役所の方のお話では、築港中学校を一応は置いておいて、築港小学校は残していただくというお話だったんですね。
- ・ 私はここに、もうずっと小さい時からずっと住んでますんでね、今までその小学校のその戦後の歴史も全部見てきましたんでね、ここの学校を作る時には、島田さんという方が、役所をお願いして、この場所で、ここは昔、台風の後には記念塔が立っていたんですよ、そこに音楽堂があったんです。それがあって、それを変えて、この中学校になったわけです。さらにその作った方々も、もう今はほとんど故人になっておられますけど、そういうことで大変皆さん努力しながら作りました
- ・ そういうことも踏まえて、築港という場所はですね、病院はあり、銀行あり、小学校あり、神社にお寺に、何もかも揃っていたんですよ。
- ・ だからそういうことから見たら本当に築港村と、昔言われていたんですけどね。何もかもが揃ったような地域だから、それと同じように港湾局の方、それから大阪税関の宿舎もありました。そういうことで本当に教育に対しても大変熱心だったです。
- ・ だからそういうことを考えて、まあ今、お話もありましたけど、築港中学校が大変いい学校だったです。だから歴代のPTAの会長の方々も、この学校なくしてどうするんやというようなことで、ずっと今までやってこられた。
- ・ だからそういうことを考えますと、本当に築港という一つのブロックを、何とかこれ残したいなと私も常々思っております。
- ・ だけど、今、大きな時代の流れですかね、少子化で。だんだん、だんだん、子どもたちがいなくなってきた、それにどう対処するかいうことの今、皆さん方、こうやって検討していただいているわけですが、それが大体の地域のコンセンサスを、皆さん方のコンセンサスをいただいてですね、なんとか、その方向に持っていきたいと思うんですが、その辺を、まあ実は、一つだけ失望したことがあるんですが、実は中央突堤ってあるんですね、あの奥に今、BMWのね、展示場ができていますよ。あれを作る時に、我々、地域に全然相談も何もなかった。
- ・ 港湾局は、ポツとある金のために、30年間、貸したんですよ、あれを。
- ・ だから私、あの時に失望しました。役所というのは、地域の住民の考え方を一応相談されて、それでするのではなしにですね、ただ、自分らがある程度、30年、ほんなら、これだけの契約金でポツと貸してしまったと、そういうふうなんで、あの時、本当に、役所ってそんなにあれかなと、何も約束したって、それは自分らのものですよ、港湾局の土地ですから、だけどあの時は、やっぱり住民にね、我々がこうしてほしいという要望があったんですよ、それをもう何もなしに、ポツと自分ら意思だけで、やってしまった。
- ・ だから先ほどご意見にもありましたけどね、この跡地をどうするんやと、どのような使い方をするんやと、もし中学校が、だから小学校残すとしていただいてもですね。中学校をどのように利用し、地域の文化に役立つような場所にしていただくのか、その辺が一番、私は

ポイントになると思いますんでね、だからその辺のこれからの地域の皆さん方との約束ですね、こういうふうな方向に行く、こういうふうにするというようなことをここで約束していただいたら、これから皆さん方、一歩ずつ、階段上がっていくのにはいいんじゃないかと、そう思ってるんですね、だから、ここでもう一度、今何段階かあるうちの2段階か3段階かわかりませんがね、もう一度、ここで、こういうふうなことをやるというような検討会をまず開いていただいて、これからはこういう使い方をするというようなことを、地元のコンセンサスいただきながら、進めていただきたいなと最後に思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(山口 港区長) 2:07:44

- ・ ご意見ありがとうございます。跡地に関しましては、学校再編をやることと決まってからというか、その並行して話をするのが大変多いんですけども、今回いろんなご意見いただいて、そういった検討会議を開いたらどうかということで、実際、生野区も全部、その生涯学習の方、体育施設開放事業の方、いろんな方が寄って会議をした上で、跡地活用に進んでいますので、どんな可能性があるかとか、またどんなことがお約束できるか、そういった機会はしっかり作りたいと思っています。ご意見ありがとうございます。